

ひまひまデータ

数字で遊ぶ
ボートレース

オフライン

モーターの前回成績が次回に与える影響を引き続き調べました

前号では、宮島28号機の3節連続Vはその後も続くのか？そして、前回優勝モーターは次も優勝しやすいのかなどを書いてみました。

その宮島28号機は田頭虎親選手が引き、1走目（8月3日）に4着で3連対連続記録が33でストップ（96年7月以降の7位）したものの、優出して2号艇。2コースからまくりが決まるかという感じでしたが、残念ながら妨害失格となり4節連続Vとはなりませんでした。

前回優勝機の次走優勝率3・46%は平均値（2・2%）より高いという結果は私にとって意外で、さらに深くモーター成績との関係について調べたくなっていました。

※集計期間を06年以降としました。20年以上前は優勝率が低いことがわかったからです。古すぎる期間は除外して、できるだけ現在の傾向に合わせようと思います。

06年以降に限定した前回優勝機の次走優勝率は3・46%から3・75%になりました（表1）。平均値2・2%の1・7倍です。

●場別の前回成績別、次走の優勝・優出率

びわこの中間整備はどの程度次走の優勝率に影響を与えているのかとても気になったのです（表2）。

前回優勝機の次走優勝率上位の順に並べてみます。びわこは4・16%で8位でした。低勝率機を中間整備で一変させるということは、前回優勝機の優勝の可能性を少し下げることになっているかと思っただけですが、違っていました。前回優勝機の

優出率も前回優出して2着以下だったモーターも、優勝率・優出率が全24場の平均値より上だったのです。成績を残したモーターはそのまま、低勝率機は底上げといういい傾向。

1位は「浜名湖」で5・42%。優勝モーター719件に対して、次走も優勝が39件で年平均2・1件。と書けば少ないように思われるかもしれませんが、浜名湖モーター65基に対して1年間の優勝戦はおよそ40。一度も優勝できないままのモーターがあるなかで、1回の優勝のあと次走も優勝というモーターが年平均2件も。

4節連続V（07年2月～3月・48号機）も浜名湖のことでした。伝説とも言えそうな6優出6優勝（優出すればすべて優勝）で3人の初優勝選手を誕生させた47号機（19年4月～20年4月）も浜名湖でした。

ちなみに浜名湖現行モーターは4月16日から使用開始。早速ですが、19号機は初おろしの4月20日に藤原啓史朗選手が乗って優勝。続く同月30日には佐々木康幸選手が乗って連続優勝。1節置いて、6月3日に山田祐也選手が優勝しています。他にも7月に62号機が連続優勝しています。浜名湖ではノルマともいえる連続優勝の年2件はすでに達成（笑）。浜名湖では特定のモーターに優勝が集中しがちなのでしょうか。

2位の江戸川。「優勝機」の次走優勝率は高いのですが、優出2着以下は平凡な成績になっているようです。そんなにも差があるのでしょうか。逆に5位の宮島は優出2着以下でも好成绩です。宮島は前回「優出」

機というだけで優勝候補になりうるのかもしれない。

下位の児島や桐生の前回優勝機は2%台。面白いことに、優出2着以下だった方が次走優勝率が高いです。児島・桐生の場合は、優勝できなかった優出機の方がお得なのかもしれません。

●選手別の前回成績別、次走の優勝・優出率

前回乗った「選手」別にこの集計をしてみるとどうなるのでしょうか？あの選手が乗ったモーターは優勝しやすいとか、この選手が乗ると優勝できないとかそんなことはあるのでしょうか。

率で集計すると、出走回数が少ない新人選手が上位や下位に集中しがちです。どこで線引きするのも難しそうで、ランキングではなく気になった選手を抽出する形で表にしてみます（表3-1）。

まずは優勝率が低い選手です。（先に断っておきますが、乗るとモーターが下降気味になるといってはいけません。たまたま下降気味のモーターを引きがちという可能性もあるのではないのでしょうか）

200節以上では東口晃選手が乗ったモーターの次に乗った選手はのべ263人で、優勝が0回です。ただよく見てください、優出は45回もあり、優出率17・1%は平均の13・4%を超えて好成绩です。優出45回のうち1号艇が2回だけということも不運な結果になっているのかもしれない。

気になったのは3位の関浩哉選

表1●06年以降、モーターの前回成績別の優出率・優勝率

結果	優勝率	優出率
前回優勝	3.75%	18.01%
前回優出2着	3.09%	16.32%
前回優出3着	2.74%	15.92%
前回優出4着	2.81%	15.54%
前回優出5着	2.53%	15.08%
前回優出6着	2.57%	14.65%
前回優出失・欠	2.90%	15.84%
前回非優出	2.13%	13.02%
全平均	2.24%	13.42%

表2●06年以降、場別のモーター前回成績別の優出・優勝率

場	前回優勝機		前回優出2着以下	
	優勝率	優出率	優勝率	優出率
浜名湖	5.42%	19.61%	3.01%	15.85%
江戸川	4.63%	18.15%	2.46%	14.85%
下関	4.62%	20.79%	2.51%	15.54%
平和島	4.46%	22.31%	2.68%	15.94%
宮島	4.41%	18.64%	3.52%	17.21%
蒲郡	4.27%	19.46%	2.53%	15.62%
住之江	4.19%	17.71%	2.38%	14.21%
びわこ	4.16%	18.81%	2.82%	16.11%
唐津	4.05%	17.96%	2.43%	15.48%
常滑	3.94%	17.59%	3.17%	15.81%
津	3.91%	16.09%	2.94%	15.72%
戸田	3.87%	18.48%	2.92%	15.91%
大村	3.82%	18.06%	2.69%	15.81%
尼崎	3.65%	15.45%	2.69%	14.76%
多摩川	3.51%	18.98%	2.87%	15.52%
芦屋	3.27%	16.37%	2.59%	15.58%
三国	3.21%	16.51%	2.67%	16.50%
若松	3.20%	16.00%	2.66%	14.82%
鳴門	3.14%	21.60%	2.90%	16.17%
丸亀	3.04%	16.80%	2.56%	14.49%
福岡	2.99%	16.11%	2.40%	14.42%
徳山	2.80%	18.71%	2.63%	14.39%
児島	2.73%	17.04%	2.90%	15.29%
桐生	2.53%	15.35%	2.91%	16.34%
平均	3.75%	18.01%	2.75%	15.52%

■=平均より高い

表3-1●次走モーターの優勝率が低い選手(200節以上)

登番	選手名	級別	優勝	優出	節数	優勝率	優出率
4664	東口 晃	B1	0	45	263	0.00%	17.11%
4519	清水 沙樹	B1	1	40	263	0.38%	15.21%
4851	関 浩哉	A1	1	36	242	0.41%	14.88%
3852	澤 大介	A2	2	68	456	0.44%	14.91%
4134	杉山 貴博	A2	3	60	502	0.60%	11.95%

表3-2●直近で5~6コースが多い選手(ただし新人除く)

登番	選手名	級別	優勝	優出	節数	優勝率	優出率
3352	小川 晃司	B1	5	60	474	1.05%	12.66%
3857	阿波 勝哉	B1	11	53	392	2.81%	13.52%
4085	荻野 裕介	B1	11	56	420	2.62%	13.33%

表3-3●1~2コース割合が多い選手

登番	選手名	級別	優勝	優出	節数	優勝率	優出率
3623	深川 真二	A1	20	72	523	3.82%	13.77%
3072	西田 靖	A2	16	76	442	3.62%	17.19%
3946	赤岩 善生	A1	19	80	580	3.28%	13.79%
3473	石川 真二	A1	12	93	524	2.29%	17.75%
3159	江口 晃生	A1	11	56	481	2.29%	11.64%
3257	田頭 実	A1	9	50	408	2.21%	12.25%
3542	清水 紀克	B1	10	63	465	2.15%	13.55%
3024	西島 義則	A1	10	55	498	2.01%	11.04%
4874	池田奈津美	B1	2	23	169	1.18%	13.61%
3265	今村 暢孝	A1	5	69	497	1.01%	13.88%

表3-4●気になる選手を抜粋

登番	選手名	級別	優勝	優出	節数	優勝率	優出率
3744	徳増 秀樹	A1	20	70	533	3.75%	13.13%
4024	井口 佳典	A1	18	88	499	3.61%	17.64%
3941	池田 浩二	A1	15	86	506	2.96%	17.00%
3897	白井 英治	A1	14	79	492	2.85%	16.06%
4320	峰 竜太	A1	13	74	504	2.58%	14.68%
3300	川崎 智幸	A2	9	51	509	1.77%	10.02%
4571	菅 章哉	A1	9	49	353	2.55%	13.88%
4561	藤山 翔大	A1	3	53	379	0.79%	13.98%
3188	日高 逸子	A2	14	89	495	2.83%	17.98%
3232	山川美由紀	A2	12	77	446	2.69%	17.26%
3435	寺田 千恵	A1	12	77	489	2.45%	15.75%
4804	高田ひかる	A2	7	23	225	3.11%	10.22%
4011	堀之内紀代子	B1	6	63	441	1.36%	14.29%

手。関選手が乗った次のモーターの出走が242節あって、優勝は1回だけ。関選手はデビュー初優勝が一般戦を飛び越してGIヤングダービー、今年1月にはBCCTで優勝してGIV3ですが、関選手が乗ったモーターの次の優勝は21年11月徳山54号機・森野正弘選手の1件しかないようです。

4位には澤大介選手。21年1月までアウト専門でしたが、そのモーターに乗った選手の優勝率は0・44%でした。優勝は2回で優出は68回。68回のうち優勝戦1号艇は5回。そのうち唯一の優勝は19年6月住之江周年の桐生順平選手。アウト向けに作ったのでインからは勝てなかった? のでしょうか(笑)。でもアウトからでも優勝はほとんどできず、もう1つの優勝は20年4月宮島で5コースから優勝した西村美智子選手。

アウトを多用する選手はどのようなでしょうか(表3-2)。5~6コース60%以上として荻野裕介選手も含めてみました。澤選手が0・44%だったので阿波選手はどうなのだろうと思ったのですが、優勝率は2・81%。平均よりも高く、澤選手と全然違う結果になりました。

阿波選手が優勝させた11件のうち5件はSG覇者の石田政・毒島・江口・菊地・馬場選手。どの選手も優勝戦インから優勝しています。ちなみに今年5月に平和島GII MB大賞でインから優勝した奈須選手も直前に阿波選手が乗ったモーターでした。阿波選手がしている調整は、本日は内の選手に有用な調整だとい

のでしょうか!? とすれば、イン志向の選手が気になるでしょうか(表3-3)。直近で1~2コース割合が多い選手を抜粋しました。こんなにも差があるものなのでしょうか…。かなり上位の3%台3人と普通の2%台5人とかなり低い2人に分かれました。

1位は深川選手で3・82%。06年以降で次に乗った20人を優勝に導いています。次がもう30年近くイン屋をやっている西田選手。SGに出ていた頃「リングが全部新品になっていたのが中古に戻した」というコメントを何度か見て、私は初めて新品がいいとは限らないということを知ったのでした。優出率も17%あり、西田選手によって丁寧な整備がなされているのかもしれない。

一方、今村暢孝選手は優勝率1・01%でかなり低いようです。06年以降では、今村選手の後に乗った選手は5人しか優勝できていません。

その06年以降の5件のうち3件目が鳴門で、守屋美穂選手の初優勝だった11年前のこと。その後は18年に松下一也選手、20年に吉村正明選手が優勝しただけ。特別な前付け仕様調整で普通の選手が乗るには優勝しにくいのでしょうか。

ほかに気になる選手を集めてみました(表3-4)。峰選手は意外と高くなく、優勝率も優出率も平均より少し上という感じ。菅章哉選手は優勝率2・55%でしたが、藤山翔大選手はかなり低く0・79%。高田ひかる選手は、優出率が低いです。優出した場合23回のうち6回が1号艇ですべてが優勝に繋がっています。